

基本方針

日本ラクロスの新たな前進と継続的な成長に向けて、その源泉である日本ラクロスの文化の伝承と日本ラクロス協会の組織基盤の再整備を推進する。

行動指針

「Direct Communication」

「Everybody is a hero in Lacrosse !」

重点事業方針

1. 個人と組織の基盤強化

- 1-1. 新生日本ラクロスの基盤づくり
- 1-2. チーム内メンバーのコミュニケーション力、自己表現力の強化
- 1-3. ラクロスOB・OG層の活性化サポート
- 1-4. 大学1年生の継続した獲得

2. 競技環境の向上推進

- 2-1. 安全環境の整備と充実
- 2-2. 優先確保グラウンドの拡充
- 2-3. 指導者の育成とネットワーク化
- 2-4. 審判員の育成(技術の追求)

3. 国際交流の推進

- 3-1. 国際的なラクロスの発展への貢献
- 3-2. チーム単位での海外遠征の促進
- 3-3. 海外チームの積極的招聘
- 3-4. 「W杯」「ASPAC大会」招致の検討

Ⅱ. 重点事業

1. 個人と組織の基盤強化

	背景と目的	施策・事業
1-1.【継続】 新生日本ラグロスの 基盤づくり	<p>【背景】JLA法人化に向けて、日本におけるラグロスを統括し代表する団体として、組織基盤の再構築が求められている。</p> <p>【目的】日本ラグロスの継続的な成長に向けて、その源泉であるレガシーの伝承と、JLAの組織基盤の強化を進める。</p>	外部機関を交えてのより透明な、各地区・各部門も含めた経理体制及びガバナンス(規定、組織)の見直しと強化/ 中長期ビジョンの策定/各地区の主体的な企画と運営/ ジュニア層などへの普及に対する準備/会報誌の発行/会員区分を拡充し幅広い年齢層をサポートするための準備/ 全国大会の見直し
1-2.【継続】 チーム内メンバーの コミュニケーション力、 自己表現力強化	<p>【背景】チーム内で「コミュニケーションをとること」が、目的化している傾向があり、そのことがチームの成長の妨げになっている。</p> <p>【目的】チームの活動目的を共有し、個々人が自分で考え、主張する文化を醸成し、強いチーム組織を作る。また、積極的に他チーム(他地区)と交流し、試合やホームステイ等を通じて、コミュニケーション能力向上につなげる。</p>	主将間で交流できる頻度を高め、「考え、主張する」という機会を提供する/各チーム指導者と連携したコンサル実施/ マネージャー会の開催/他地区を招き順位を決めない交流戦の開催/ホスト地区は原則ホームステイを提供する/クラブチーム活性化の模索など
1-3.【継続】 ラグロスOB・OG層の 活性化サポート	<p>【背景】大学チームや組織運営等へのオトナの関与の薄さが、日本ラグロスのパイオニア精神、「変革・改革を楽しむ」文化の継承の阻害要因となっている。</p> <p>【目的】各大学OB会・OG会の活性化を進め、ラグロスのつながりで、まだまだ楽しもうという状況を掘り起こす。</p>	OBG現役を含めた2校による定期戦開催推奨/大会会場への子供向け遊具の設置/OBG独自の普及活動等へのサポート/OBGによる大会スタッフサポートなど
1-4.【継続】 大学1年生の継続 した獲得	<p>【背景】「人数＝強さ」が現実であり、1年生の継続した獲得と初期指導の重要性の認識の定着・浸透が求められている。</p> <p>【目的】手法論からの再考を繰り返し、継続した獲得を目指す。</p>	中規模チームの人数拡大に傾注

II. 重点事業（続き）

2. 競技環境の向上推進

	背景と目的	施策・事業
2-1.【継続】 安全環境の整備と 充実	<p>【背景】技術・体カレベルの向上に伴い、海外と同様に危険なプレーが増えている。社会的にもスポーツ中の安全面に注目が集まっている。</p> <p>【目的】指導者による適切な安全指導、審判員による危険なプレーへの的確な判断、競技ルール及び規約の見直しにより選手が安全にラクロスをプレーできる環境を整備する。</p>	指導者講習会、SG講習会、審判講習会、及び大会運営等での安全指導内容の見直し/海外事例の調査/脳震盪への対応策の実施と啓蒙/安全対策委員会設置の検討/各チームの安全対策意識の啓蒙
2-2.【継続】 優先確保グラウンド の拡充	<p>【背景】東京五輪の準備、設備老朽化による施設減少（関東・東海・関西）や、リーグ戦・全国大会の質向上・試合数増（全国）に伴い、ラクロス試合会場が不足してきている。</p> <p>【目的】大会を開催できる施設を増やすとともに、全国大会開催地を首都圏集中から他地区に分散させ、リーグ戦・全国大会・協会主催行事を2022年頃まで安定的に開催する。</p>	地区・本部が連携し施設・自治体と交渉/施設の新規開拓と優先権確保/優先権の維持・拡大に向けた施設等との関係強化/全国大会予選・1回戦・準決勝の開催地を各地区に分散/首都圏近郊合宿地での大会・協会主催行事の開催/ユニファイフィールドの検討
2-3.【継続】 指導者の育成と ネットワーク化	<p>【背景】指導者の重要性に関する認知・理解が定着しつつある中で、指導者層の拡大や長期継続、スキルの底上げ・レベルアップが求められる。</p> <p>【目的】指導者認定制度を通じて、ラクロス指導者として求められる知識・スキル・姿勢の定着・高度化、それらを身に付けた指導者層の拡大、指導者間の相互交流を促進し、以って、全国的な競技レベルの向上を加速させる。</p>	学生リーグ戦へのA級指導者設置参加要件化（2019年導入予定）の準備/B級講習会の全国開催/上級指導者間でのコミュニケーション促進（全地区での展開、上級者対象）/地区の指導者を集めコンベンションや意見交換会の開催など
2-4.【継続】 審判員の育成 （技術の追求）	<p>【背景】選手の競技力の向上や、競技自体（ルール・用具等）の進化にともない、審判員には、その高い競技性に即したジャッジが強く求められるようになっている</p> <p>【目的】審判員数の増加のみならず、主に継続性の高い1・2級審判員を育成し競技の魅力向上に貢献する。</p>	大学卒業後などの審判継続を促進/地区内の審判員コミュニティの活性化/審判員指導者育成制度の実行/各地区の強化部やチーム側などとの会話促進による競技特性の共有/海外大会への派遣促進など

Ⅱ. 重点事業（続き）

3. 国際交流の推進

	背景と目的	施策・事業
3-1.【継続】 国際的なラクロスの 発展への貢献	<p>【背景】アジアラクロス世界的な基盤整備・普及促進に向けて日本の貢献への期待が高まっている。（1996年からの中国・韓国に対する普及協力等）</p> <p>【目的】特に東アジア地域の競技国を増やすことに注力し、国内活性、認知度向上への波及に繋げる。</p>	日本ラクロスの海外への発信/国外普及活動の支援/APLU主要国として、アジア諸国普及への再注力と関係性の強化と構築/審判育成プログラムへの協力/ラクロスのオリンピック種目化を想定した対応/ワールドゲームスへの参加
3-2.【継続】 チーム単位での 海外遠征の促進	<p>【背景】2009年をピークに海外遠征者数は微減傾向にある。（2017年実績：440名、2016年：535名）</p> <p>【目的】一般チーム・選手レベルでの国際経験を通じた、選手の視野の拡大、競技レベルの向上を図る。</p>	海外遠征の奨励/新規チーム開拓/海外渡航人数の明確化/チーム単体のみならず、参加希望者による独自遠征をサポート/全地区の海外遠征需要、海外大会及び推奨地区のリサーチ/国内行事との日程調整/海外遠征時の緊急対応/海外留学の推奨など
3-3.【継続】 海外チームの 積極的招聘	<p>【背景】来日チーム・選手数は増加傾向にある。（2017年実績：211名、2016年：72名）</p> <p>【目的】各国への招致活動を進め、外国選手との接点をさらに増加させ、日本ラクロスの魅力向上に繋げる。</p>	海外向けPRツールの作成（HP英語ページ更新など）/日本各地区の魅力海外に分かりやすく提示/海外コンベンションでの発信/多地区での国際親善試合等開催/海外における交渉活動/世界に目を向けたチーム招聘交渉の継続/中期的な交渉継続に基づく招聘推進/日本代表のW杯での順位結果が重要な要素になるなど
3-4.【継続】 「W杯」「ASPAC大会」 招致の検討	<p>【背景】JLA設立時より日本ラクロスの成長、アジアにおけるラクロス普及の先導、男女W杯での一定の成績など、国際大会を承知するに十分な下地はできたとの認識にある。</p> <p>【目的】日本ラクロスのさらなる活性化、世界のラクロスにおけるアジア・日本の地位・存在感のさらなる向上に繋げる。</p>	今後の世界大会、「ASPAC（アジア・パシフィック）大会」招致に向けた企画・準備の開始/OBGを含めた開催・運営のありかたの追求など